

# ウェブで不登校の学習支援

## 来春からライブ授業配信

### ルネッサンス クラウド利用の「学校」

システム開発・運用を行うルネッサンスルパン（中島利晃社長、盛岡市大通）が、不登校の児童・生徒向けのウェブ学習「クラウドコミュニケーションスクール（CC School）」を立ち上げる。来春4月から、小学3年から中学3年までの不登校者を対象に、クラウド（ネット上で保管するデータ）を利用した完全会員制のライブ（実況）授業を配信する。小規模事業持続化補助金も採択済み。大学や学習塾などとともに、産官学連携事業として始動させる予定だ。ICT（情報通信技術）を活用した小・中学生向けのライブ授業は、全国的にも先駆的な取り組み。

## 完全会員制、交流の場に

文部科学省の調査 前後の児童生徒が復帰する。  
（2014年8月発表）していない。同スクールは復帰できずにいる用いた相互通信可能な子どもたちの学力低下を、実況授業。パソコンと防ぎ、学校への復帰とインターネットがあれ社会的自立を支援すは受けられる。完全会



ルネッサンスルパンの中島利晃社長

員制で無理のない学力レベルを選択でき、同じ悩みを持つ者同士の交流の場とする。ライブ授業で午前中から授業を受けるスタイルを定着させ、生活習慣を整わせる。カウンセリングセミナーなども実施し、親や当事者の心のケアも行う。将来的には年数回リアル授業を実施し、友人づくりなど社会とのつながりの場を提供する。

中島社長（44）には、息子と娘の子ども2人がいる。息子が小学1年のころ不登校になり、今は回復傾向にあるが、完全復帰には至

っていない。

中島社長は「子どもが初めて学校に行けなくなった時、最初の学

校は『受験に響きまますよ』と確認したただけだった。息子が小2のころ盛岡に引っ越し、協

力的な先生にも会えたが完全な復帰は難しく、中学入学時に『特別支援学級でしか受け

入れない』と言われた」と振り返る。

中学2年になった息子は特別支援学級で授業を受けており、中学生相当の学力が身に付かない状態という。中

島社長は「中学になる」と授業内容も難しくなり親が教えるにくくなる。コミュニケーションン力も乏しく家庭教師

も付けられない」と現状を語る。

子どもの不登校が数年続くうちに目標が「登校」でなく、将来的な「社会的自立」で良いと考えるようになったという。中島社長は「学校は登校させろと言ったが、本人が苦しんでいることを親は一番理解している。不登校者でも基礎学力を習得できる場が必要と考えた」と思いを語る。

同スクールの学習計画は、教師・保護者・子どもで学習レベルを設定し、学校の授業とウェブ学習を併用する。

午前中は同スクールの授業を受け、午後は学校に行くなど、自分のペースで学習場所を選べる。学習習慣を身に付けさせ、徐々に学校の授業にシフトさせる設計図を描く。

授業料などは検討中。今年12月には講師3〜5人をそろえ、冬季講習などを試験運用する。

県内外の大学や学習塾と連携する予定で、円滑な事業運営のためさらなる協力を仰ぐ。教育学部の学生も歓迎し「不登校児童生徒の対応について学ぶ機会となる」と勧める。

同省は05年にICT・郵送などを活用した学習活動を出発点にする通知を、全国の小・中学校向けに通知している。13年度の活用数は250程度と少なく、同省は「活用が十分なされていない」との認識を示す。

中島社長は「サイバースクール化を目指し、全国の不登校児童生徒の受け皿的役割を担いたい」と展望している。